

平成 26 年度労災疾病臨床研究事業費補助金事業 研究結果の概要

研究課題 : 運動器外傷診療の質向上を目指した探索的研究
～初療からリハビリテーション、社会復帰まで～
研究代表者 : 独立行政法人労働者健康福祉機構
横浜労災病院 運動器センター 三上 容司

1. 研究結果の概要

- ・日本骨折治療学会が開始した症例登録システムである DOTJ (Database of Orthopaedic Trauma by JSFR) と互換性を有する運動器外傷登録システムを開発する。
- ・DOTJ の調査項目を基盤に、さらに、リハビリテーション、社会復帰、医療経済に関する項目を追加し、本研究の目的に沿った調査項目を設定した。
- ・平成 26 年 11 月に日本職業災害医学会に於いて、運動器外傷登録、データ収集・分析の必要性について講演した。
- ・平成 26 年 11 月、本研究に関わる研究者、事務局が集まり、第 1 回の研究者会議を開催し、本研究の目的、具体的な実施計画などにつき情報共有した。

2. 研究により得られた成果の今後の活用・提供

調査項目は概ね決まったが、小修整を要する可能性がある。

研究分担者、協力者と協議しつつ、近々調査項目を確定する予定である。

また、症例登録システムも平成 27 年 7 月頃には、運用が可能になる予定である。

運用可能になり次第、試験運用を開始し、問題点の洗い出し、修正を行った上で、症例の本登録に移行する。

本登録開始は、平成 27 年夏～秋頃を目指している。

3. 研究の実施経過

平成 26 年 11 月、第 62 回日本職業・災害医学会にて、運動器外傷の登録によるデータ収集について、収集すべき調査項目、収集する方法、データ管理法、得られたデータから解析可能な clinical question 等、研究の概要について発表した。

平成 26 年 11 月 16 日、研究責任者、研究分担者、協力者、事務局が集まり、神戸国際会議場にて、第 1 回第 1 回研究者会議を開催した。

第 1 回研究者会議では、本邦における運動器外傷、特に重度外傷の診療システムに関する問題点が議論された。

運動器外傷診療の質の向上を目指すためには、集約化が重要であり、そのための診療体制作りが必要であるが、それを提言していくための基本的な臨床データに乏しいことが問題であるとの認識が参加者により共有された。そのためには、運動器外傷の基本的な診療データを収集する必要がある、それが本研究における最大の事業である点が認識された。

日本骨折治療学会が主導して、四肢開放骨折の調査登録（DOTJ）が始まったので、本研究中の調査項目の一部を DOTJ の調査項目と一致させるよう同学会と交渉し、合意を得た。

平成 27 年 3 月末時点で、調査項目を web 上で登録するシステムの概要は概ね固まった。IT システムを委託する業者が決まり次第、具体的な登録システムの構築・運用に移行する予定である。